

柏の景気情報（平成20年9月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成20年9月分）

○ 調査期間 : 平成20年9月16日 ~ 9月19日

○ 調査対象 : 柏市内112事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	112	78	69.6%
建設	19	16	84.2%
製造	26	17	65.4%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	24	16	66.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年9月の調査結果のポイント】

〈業況DIは4か月連続で最悪の水準、売上採算DIは若干回復〉

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲55.1(前月水準▲55.0)となり、マイナス幅が▲0.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲58.8)、卸小売業▲48.2(同▲55.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲52.9(同▲38.8)、建設業▲75.0(同▲68.7)である。

【建設業】では「プラスになる要素は見当たりません」(一般土木建築工事業)「ガソリン代・材料代の値上げの影響がかなり出ている。倒産情報など不安要素が大きい」(板金・金物工事業)「6か月前の積算見積もりに対して、原材料の値上がりは工事価格内で吸収しきれない(赤字になる)先行き見通しの暗いのが心配」(電気工事業)といったコメントが寄せられた。

【製造業】では、「受注を含め引き合いの件数も少なくなり、「仕事の入りがストップした」などの声が聞こえ始めてきた」(その他の機械・同部分品製造業)「設備投資の減少で受注が激減」(電子部品・デバイス製造業)などの、受注減少に関するコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「柏商圈は近年の大型店、SCの出店により、既にオーバーストア気味であると思うが、周辺地域での大型SC(新三郷等)のオープンにより、更に競争の激化が予想され、中小の小売店やスーパーのみならず、市内の大型小売業も大きな影響を受けるものと思う」(百貨店)「大型店新館の開業は自社への影響はどうか?希望的観測としては売上増?」(書籍・文房具小売業)「9月度は大型店のセール期間が、昨年開催期間から後ろ倒しになり、9月にずれこんだことから、初旬より客数・売り上げ共に好調な出足となった。また、売上高が昨年と比べ一時二桁伸長するものの、それ以降売上高は伸び悩み、前年を下回る推移となった。9月は23日まで催事を開催。週末にはビューティー講座を開催し、集客を図り売上に繋げていく」(各種商品小売業)、といった大型店に関するコメントが多く寄せられた。また「7月のタスポ導入時よりたばこ有りのコンビニは客数が増加し、ソフトドリンク等の関連買い等もあり、売上は伸びている。しかし徐々に影響は少なくなっている」(その他の各種商品小売業)といった声が寄せられた。

【サービス業】は、「宿泊宴会とも売り上げ減。水光熱費増。重油対前で2倍。電気の燃料調整費7倍」(ホテル)「9月1日より50円程度値上げをしたが、常連のお客様にすぐに価格転嫁できていいと言われるなど、普通のお客様は間の状況を理解してくださっている。今後の状況を見ながらよりよいサービスの向上に心がけていきたい。同業でも後継がおらずどんどんやめていっていき、資本力や後継者のいないところは成り立たないのが今の状況」(そば・うどん店)、といった経費拡大や、価格転嫁による影響のコメントも寄せられた。

◎原材料高騰

各業種から「油脂関係の値上げがうなぎ昇り。9月からサラダ油3,000円から4,900円へ」(菓子・パン小売業)「小麦・油・肉等の食材の値上がりを売価に転嫁できない厳しい状況が続く。文具・事務用品・文具大手の卸会社倒産あり、厳しい状況が続く。衣料用品大手卸会社の大幅縮小もあり、中小の小売商店の環境はかなり厳しいと思う」(その他の飲食料品小売業)「ガソリン代・材料代の値上げの影響がかなり出ている」(板金・金物工事業)「原油価格、原材料価格の高騰による企業の業績の悪化が目立ってきている。」(各種食料品小売業)「生活のベースである食料品が上がり、電気・ガス等の公共料金の値上げ予告もあり、先行き警戒」(その他の各種商品小売業)という声があがっている。

◎先行き不安

各業種から「倒産情報など不安要素が大きい」(板金・金物工事業)「先行き見通しの暗いのが心配」(電気工事業)「全体的な景気はますます悪くなるだろう。それに加えてサブプライムローン問題の影響が世界各国で起こっているため、世界的な不景気が予想される」(各種食料品小売業)といった声が寄せられた。

◎購買意欲の低下

各業種から「企業業績の停滞や物価の上昇、食の安全を脅かす事案の発生などが、消費者のマインドを消極的にしているものと思う」(百貨店)「景気低迷・物価上昇により消費者の買い控えや身の回りの節約により、プロパンガスの消費量も落ち込んでいる。また、8月は猛暑ということもあいまって、昨年同月比で10%減となった」(燃料小売業)「生活のベースである食料品が上がり、電気・ガス等の公共料金の値上げ予告もあり、先行き警戒感からか、消費者の購買意欲を全く感じない。景況はさらに悪くなりそう」(その他の各種商品小売業)など多くのコメントが多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲41.9	▲38.4	▲20.0	▲54.8	▲47.0
5月	▲34.2	▲42.8	▲5.2	▲40.7	▲50.0
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
見通し	▲43.5	▲43.7	▲41.1	▲44.8	▲43.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年9月の業況についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲55.1(前月水準▲55.0)となり、マイナス幅が▲0.1ポイント拡大した。

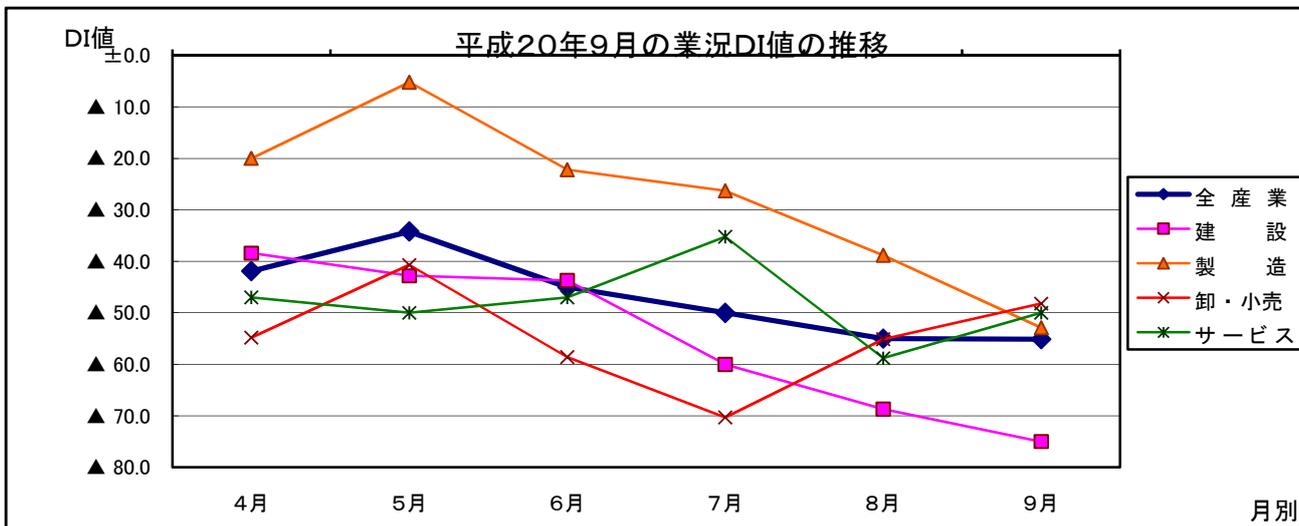
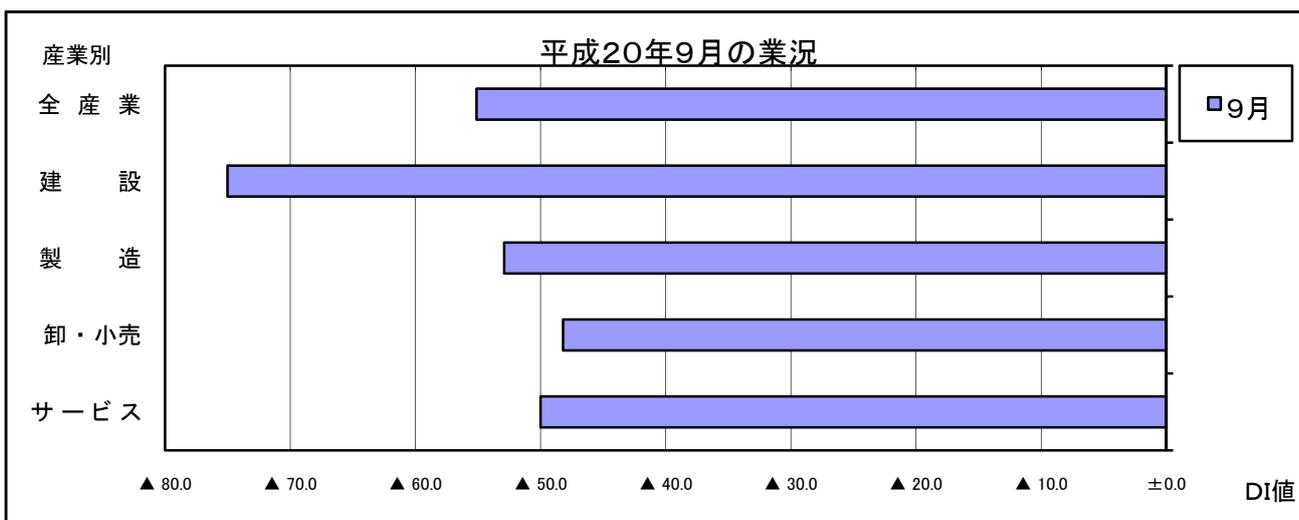
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲58.8)、卸小売業▲48.2(同▲55.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲52.9(同▲38.8)、建設業▲75.0(同▲68.7)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲43.5(前月水準▲53.7)となり、マイナス幅が△10.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.8(同▲65.5)、サービス業▲43.7(同▲52.9)、製造業▲41.1(同▲44.4)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△20.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、建設業▲43.7(同▲43.7)である。

平成20年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲41.9	▲34.2	▲45.0	▲50.0	▲55.0	▲55.1	▲43.5(▲53.7)
建設	▲38.4	▲42.8	▲43.7	▲60.0	▲68.7	▲75.0	▲43.7(▲43.7)
製造	▲20.0	▲5.2	▲22.2	▲26.3	▲38.8	▲52.9	▲41.1(▲44.4)
卸・小売	▲54.8	▲40.7	▲58.6	▲70.3	▲55.1	▲48.2	▲44.8(▲65.5)
サービス	▲47.0	▲50.0	▲47.0	▲35.2	▲58.8	▲50.0	▲43.7(▲52.9)



【平成20年9月の売上についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.9(前月水準▲31.2)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小した。

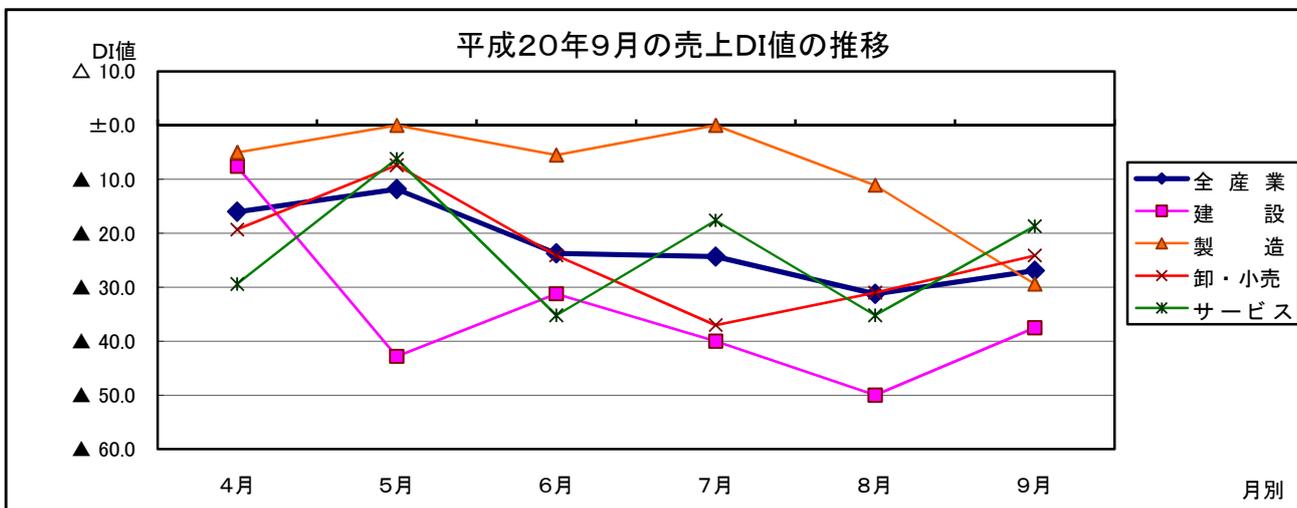
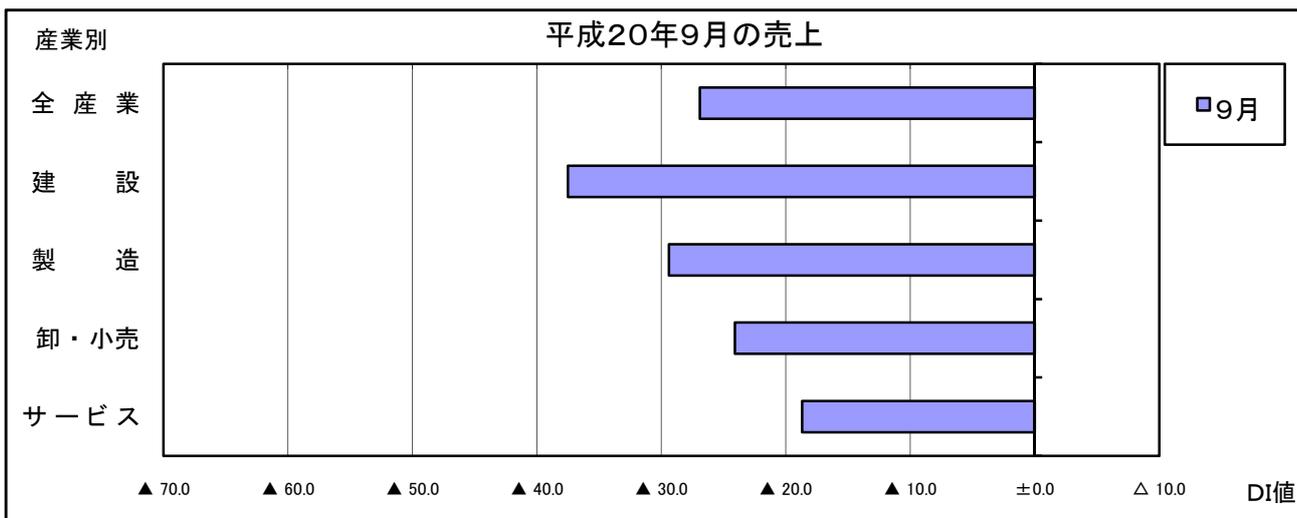
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲35.2)、建設業▲37.5(同▲50.0)、卸小売業▲24.1(同▲31.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲29.4(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.6(前月水準▲23.7)となり、マイナス幅が▲1.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲18.7(同▲29.4)である。変わらない見通しの業種は、建設業▲25.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.5(同▲11.1)、卸小売業▲31.0(同▲27.5)である。

平成20年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲16.0	▲11.8	▲23.7	▲24.3	▲31.2	▲26.9	▲25.6(▲23.7)
建設	▲7.6	▲42.8	▲31.2	▲40.0	▲50.0	▲37.5	▲25.0(▲25.0)
製造	▲5.0	±0.0	▲5.5	±0.0	▲11.1	▲29.4	▲23.5(▲11.1)
卸・小売	▲19.3	▲7.4	▲24.1	▲37.0	▲31.0	▲24.1	▲31.0(▲27.5)
サービス	▲29.4	▲6.2	▲35.2	▲17.6	▲35.2	▲18.7	▲18.7(▲29.4)



【平成20年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲48.7(前月水準▲52.5)となり、マイナス幅が△3.8ポイント縮小した。

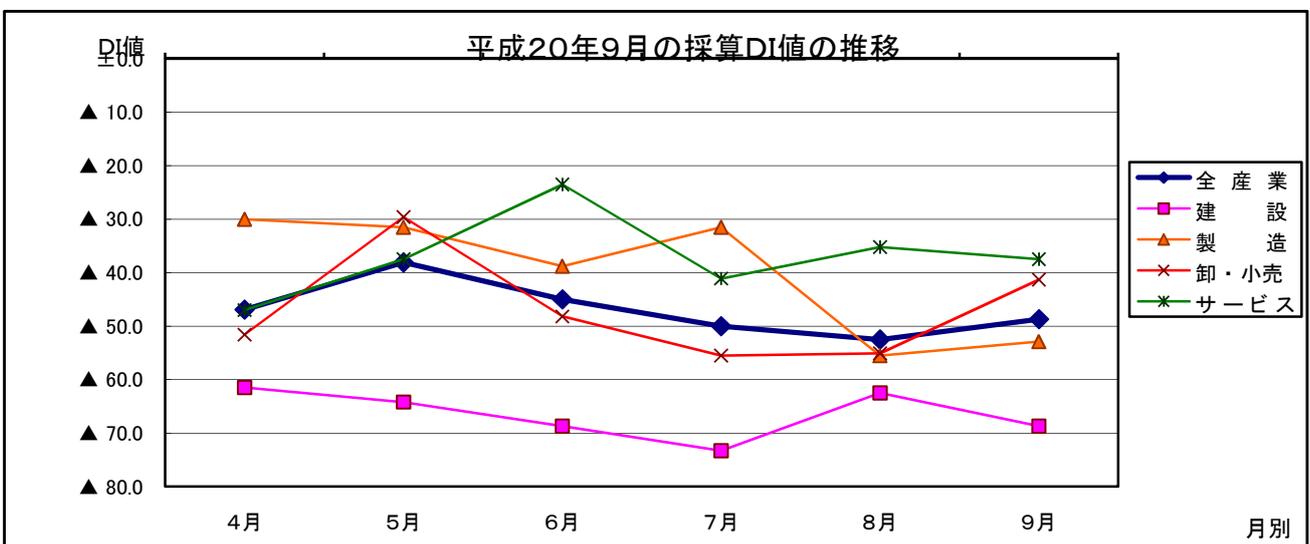
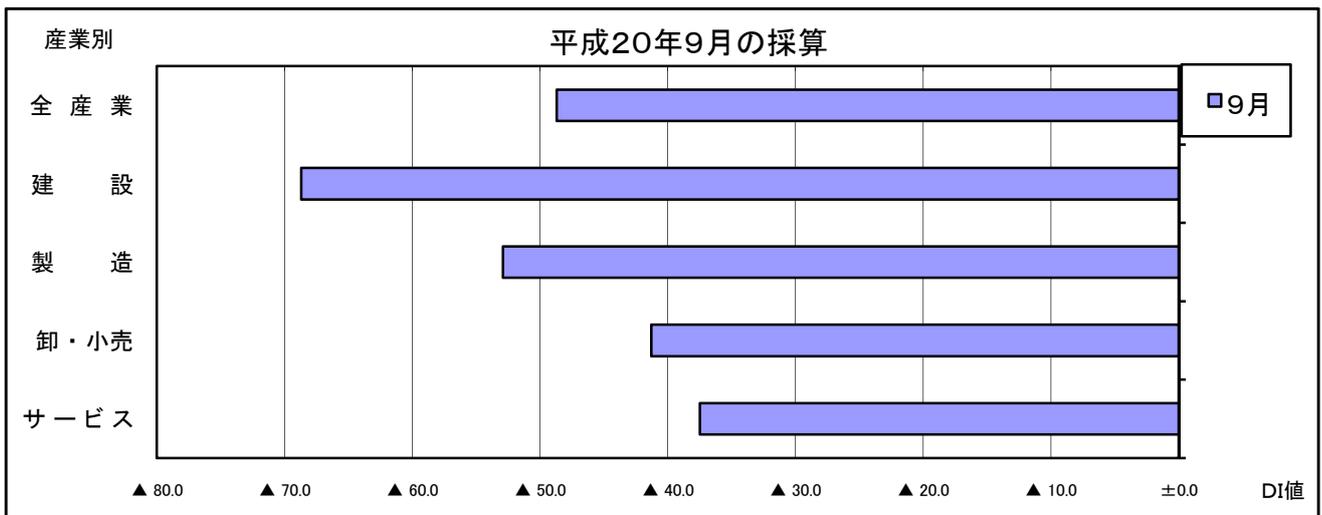
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲41.3(同▲55.1)、製造業▲52.9(同▲55.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲68.7(同▲62.5)、サービス業▲37.5(同▲35.2)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.4(前月水準▲42.5)となり、マイナス幅が4.1△ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲41.1)、建設業▲43.7(同▲50.0)、卸小売業▲44.8(同▲48.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲35.2(同▲27.7)である。

平成20年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲46.9	▲38.1	▲45.0	▲50.0	▲52.5	▲48.7	▲38.4(▲42.5)
建設	▲61.5	▲64.2	▲68.7	▲73.3	▲62.5	▲68.7	▲43.7(▲50.0)
製造	▲30.0	▲31.5	▲38.8	▲31.5	▲55.5	▲52.9	▲35.2(▲27.7)
卸・小売	▲51.6	▲29.6	▲48.2	▲55.5	▲55.1	▲41.3	▲44.8(▲48.2)
サービス	▲47.0	▲37.5	▲23.5	▲41.1	▲35.2	▲37.5	▲25.0(▲41.1)



【平成20年9月の仕入単価についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲65.3(前月水準▲65.0)となり、マイナス幅が▲0.3ポイント拡大した。

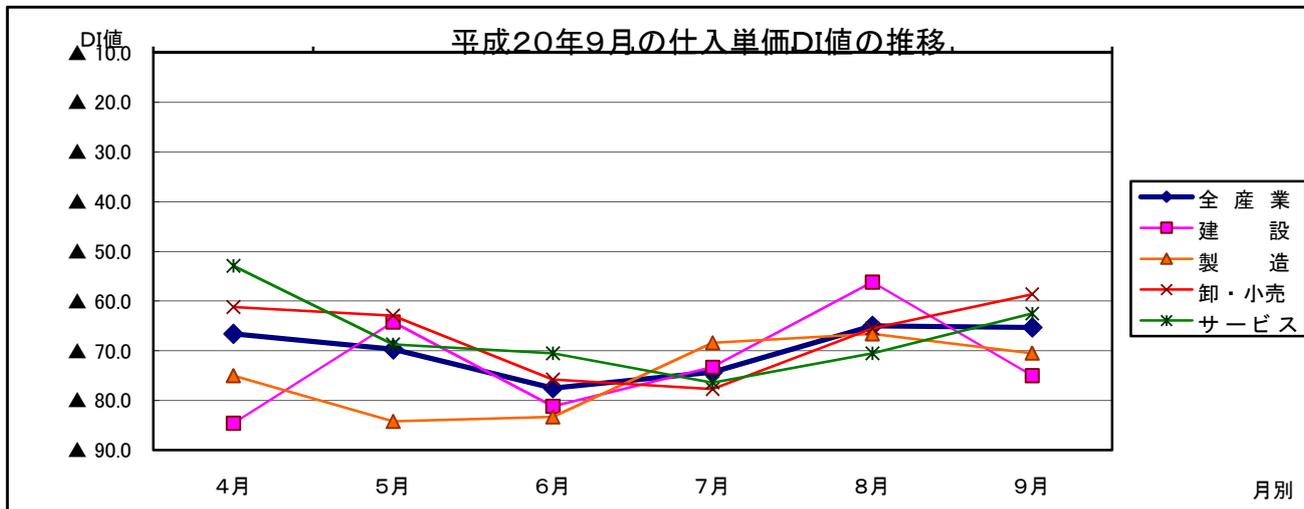
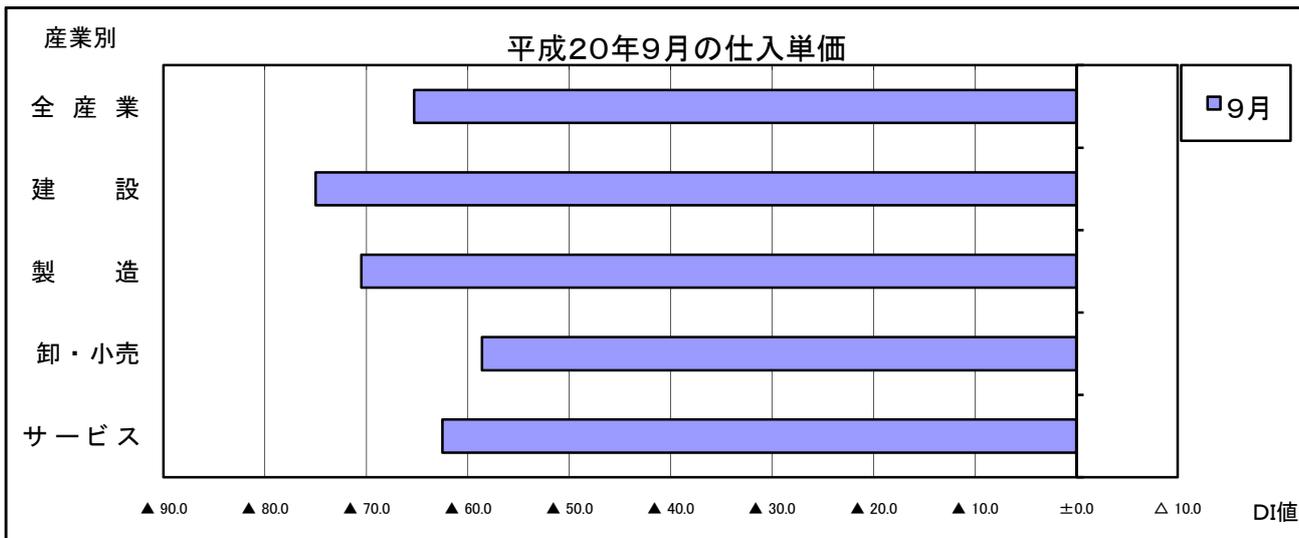
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲62.5(同▲70.5)、卸小売業▲58.6(同▲65.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲75.0(同▲56.2)、製造業▲70.5(同66.6)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲52.5(前月水準▲61.2)となり、マイナス幅が▲8.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲51.7(同▲65.5)、製造業▲52.9(同▲66.6)、サービス業▲50.0(同▲58.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲56.2(同▲50.0)である。

平成20年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲66.6	▲69.7	▲77.5	▲74.3	▲65.0	▲65.3	▲52.5(▲61.2)
建設	▲84.6	▲64.2	▲81.2	▲73.3	▲56.2	▲75.0	▲56.2(▲50.0)
製造	▲75.0	▲84.2	▲83.3	▲68.4	▲66.6	▲70.5	▲52.9(▲66.6)
卸・小売	▲61.2	▲62.9	▲75.8	▲77.7	▲65.5	▲58.6	▲51.7(▲65.5)
サービス	▲52.9	▲68.7	▲70.5	▲76.4	▲70.5	▲62.5	▲50.0(▲58.8)



【平成20年9月の従業員についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.2(前月水準△5.0)となり、マイナス幅に▲6.2ポイント拡大した。

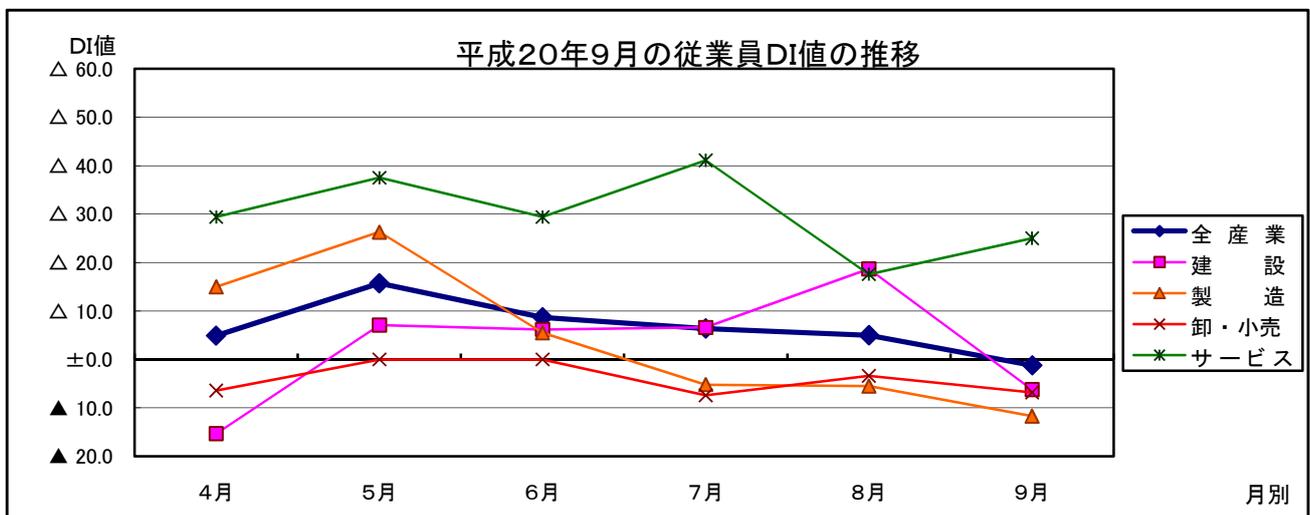
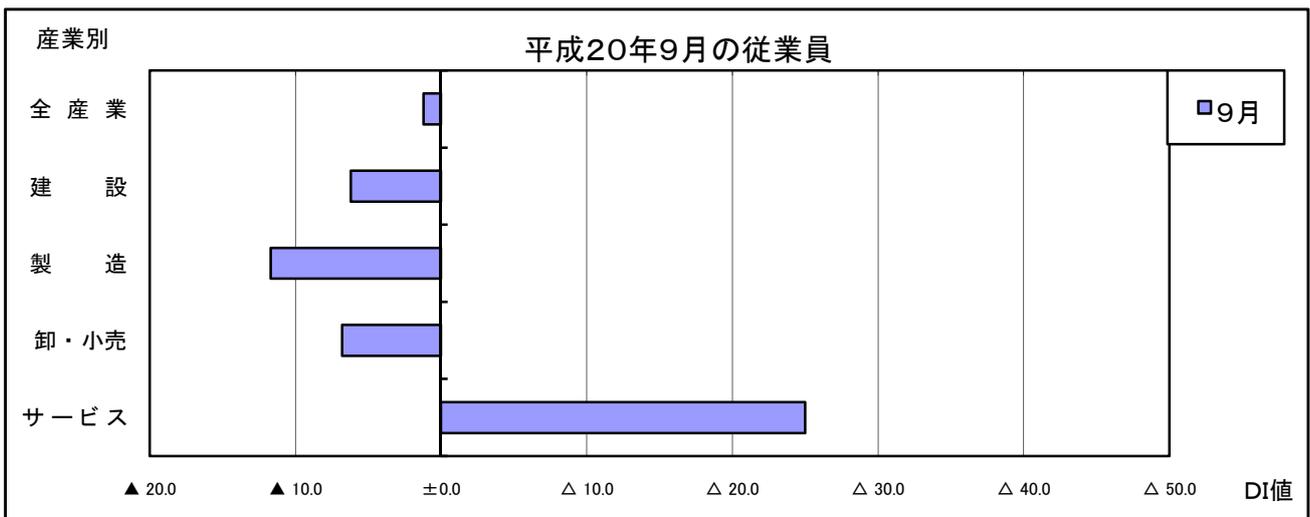
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△25.0(同△17.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲6.2(同△18.7)であり、▲24.9ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲5.5)、卸小売業▲6.8(同▲3.4)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.5(前月水準△3.7)となり、プラス幅が▲1.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△10.3(同±0.0)、サービス業△25.0(同△23.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.7(同±0.0)、製造業▲11.7(同▲5.5)である。

平成20年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△ 4.9	△ 15.7	△ 8.7	△ 6.4	△ 5.0	▲ 1.2	△ 2.5 (△ 3.7)
建設	▲ 15.3	△ 7.1	△ 6.2	△ 6.6	△ 18.7	▲ 6.2	▲ 18.7 (±0.0)
製造	△ 15.0	△ 26.3	△ 5.5	▲ 5.2	▲ 5.5	▲ 11.7	▲ 11.7 (▲ 5.5)
卸・小売	▲ 6.4	±0.0	±0.0	▲ 7.4	▲ 3.4	▲ 6.8	△ 10.3 (±0.0)
サービス	△ 29.4	△ 37.5	△ 29.4	△ 41.1	△ 17.6	△ 25.0	△ 25.0 (△ 23.5)



【平成20年9月の資金繰りについての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.9(前月水準▲30.0)となり、マイナス幅が△3.1ポイント縮小した。

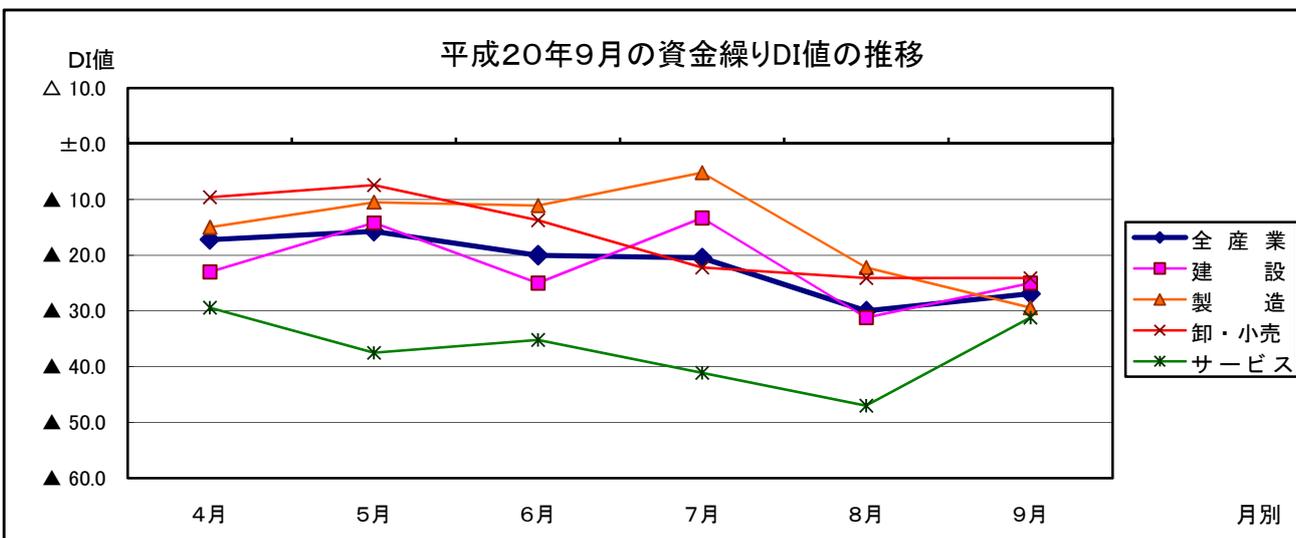
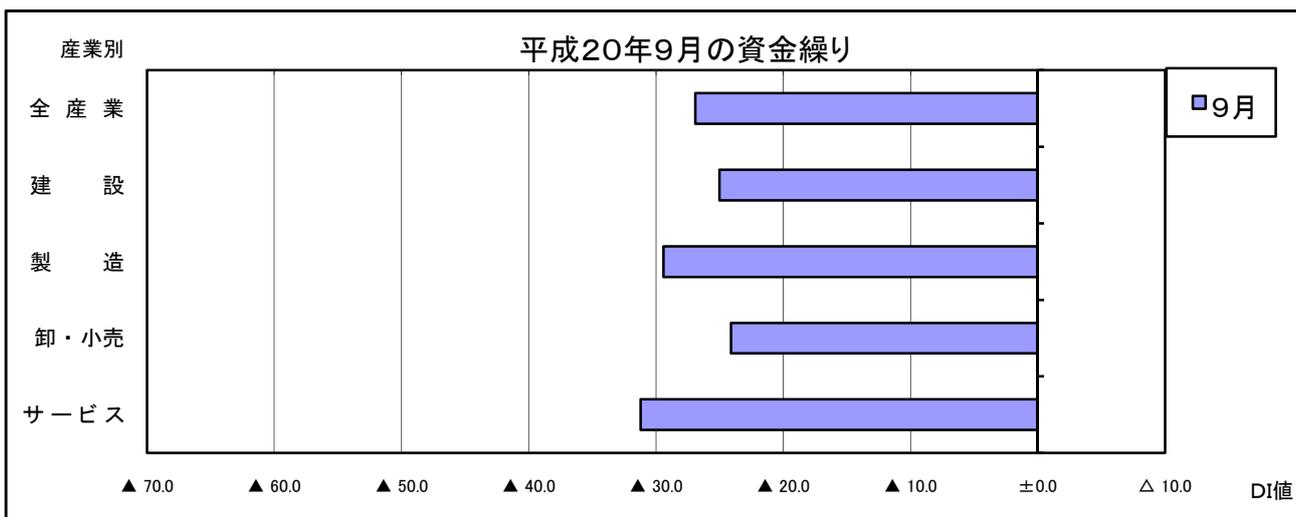
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲47.0)、建設業▲25.0(同▲31.2)である。変らない業種は、卸小売業▲24.1(同▲24.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲29.4(同▲22.2)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.9(前月水準▲27.5)となり、マイナス幅が△0.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲37.5(同▲41.1)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲24.1(同▲24.1)、建設業▲25.0(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲23.5(同▲22.2)である。

平成20年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲17.2	▲15.7	▲20.0	▲20.5	▲30.0	▲26.9	▲26.9(▲27.5)
建設	▲23.0	▲14.2	▲25.0	▲13.3	▲31.2	▲25.0	▲25.0(▲25.0)
製造	▲15.0	▲10.5	▲11.1	▲5.2	▲22.2	▲29.4	▲23.5(▲22.2)
卸・小売	▲9.6	▲7.4	▲13.7	▲22.2	▲24.1	▲24.1	▲24.1(▲24.1)
サービス	▲29.4	▲37.5	▲35.2	▲41.1	▲47.0	▲31.2	▲37.5(▲41.1)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.9	▲ 25.6	▲ 48.7	▲ 38.4	▲ 65.3	▲ 52.5	▲ 1.2	△ 2.5
建設	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 68.7	▲ 43.7	▲ 75.0	▲ 56.2	▲ 6.2	▲ 18.7
製造	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 52.9	▲ 35.2	▲ 70.5	▲ 52.9	▲ 11.7	▲ 11.7
卸・小売	▲ 24.1	▲ 31.0	▲ 41.3	▲ 44.8	▲ 58.6	▲ 51.7	▲ 6.8	△ 10.3
サービス	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 62.5	▲ 50.0	△ 25.0	△ 25.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 55.1	▲ 43.5	▲ 26.9	▲ 26.9
建設	▲ 75.0	▲ 43.7	▲ 25.0	▲ 25.0
製造	▲ 52.9	▲ 41.1	▲ 29.4	▲ 23.5
卸・小売	▲ 48.2	▲ 44.8	▲ 24.1	▲ 24.1
サービス	▲ 50.0	▲ 43.7	▲ 31.2	▲ 37.5

【平成20年9月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設業	プラスになる要素は見当たりません	好材料なし	一般土木建築工事業
	ガソリン代・材料代の値上げの影響がかなり出ている。倒産情報など不安要素が大きい	原油高騰 原材料高騰 先行き不安	板金・金物工事業
	6か月前の積算見積もりに対して、原材料の値上がりは工事価格内で吸収しきれない(赤字になる)先行き見通しの暗いのが心配	原材料高騰 先行き不安	電気工事業
製造業	10月1日からの材料の値上がりに対して、販売先への値上げ交渉が難航している。	原材料高騰 値上げ交渉	紙製容器製造業
	受注を含め引き合いの件数も少なくなり、「仕事の入りがストップした」などの声が聞こえ始めてきた。	受注減少	その他の機械・同部分品製造業
	設備投資の減少で受注が激減	設備投資減少 受注減少	電子部品・デバイス製造業
卸小売業	柏地域は団塊世代の割合が他地域に比べても多いが、団塊世代のリタイヤがピークを迎え、消費支出は減少傾向にあるように思う。また、企業業績の停滞や物価の上昇、食の安全を脅かす事案の発生などが、消費者のマインドを消極的にしているものと思う。 柏商圈は近年の大型店、SCの开店により、既にオーバーストア気味であると思うが、周辺地域での大型SC(新三郷等)のオープンにより、更に競争の激化が予想され、中小の小売店やスーパーのみならず、市内の大型小売業も大きな影響を受けるものと思う。	物価上昇 食の安全 購買意欲の低下 大型店開店 大型店の競争激化	百貨店
	原油価格、原材料価格の高騰による企業の業績の悪化が目立ってきている。全体的な景気はますます悪くなるだろう。それに加えてサブプライムローン問題の影響が世界各国で起こっているため、世界的な不景気が予想される。食の安全に対する企業の姿勢が問われている。三笠フーズ等の企業も悪いが、農水省のトップはもっと問題だと思う。我々企業は襟を正して、正直な経営をすることが今一番大切なことではないだろうか？	原材料高騰 業績悪化 先行き不安 金融不安 食の安全 コンプライアンス	各種食料品小売業
	7月のタスポ導入時よりたばこ有りのコンビニは客数が増加し、ソフトドリンク等の関連買い等もあり、売上は伸びている。しかし徐々に影響は少なくなっている。	タスポ導入 来店者数増	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	油脂関係の値上げがうなぎ昇り。9月からサラダ油3,000円から4,900円へ	油脂製品値上げ	菓子・パン小売業
	小麦・油・肉等の食材の値上がりを売価に転嫁できない厳しい状況が続く。文具・事務用品・文具大手の卸会社倒産あり、厳しい状況が続く。衣料用品大手卸会社の大幅縮小もあり、中小の小売店の環境はかなり厳しいと思う。	原材料高騰 価格転嫁 厳しい業況	その他の飲食料品小売業
	景気低迷・物価上昇により消費者の買い控えや身の回りの節約により、プロパンガスの消費量も落ち込んでいる。また、8月は猛暑ということもあって、昨年同月比で10%減となった。プロパンガスの仕入れ価格については、このところ落ち着きをみせているが、米国大手証券会社のリーマンブラザーズの破綻等、金融不安により、資金がドルから原油に流出し、原油高となる可能性があるため、プロパンガス価格も不安定になりか	物価上昇 購買意欲の低下 金融不安 原油高騰	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)

【平成20年9月の業種別業界内トピックス】

	<p>ステーションモール新館の開業でどうなるか？希望的観測としては売上増？</p>	大型店増床	書籍・文房具小売業
	<p>生活のベースである食料品が上がり、電気・ガス等の公共料金の値上げ予告もあり、先行き警戒感からか、消費者の購買意欲を全く感じない。景況はさらに悪くなりそうだ。</p>	<p>食料品値上げ 公共料金値上げ 購買意欲の低下</p>	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	<p>9月度は大型店のセール期間が、昨年開催期間から後ろ倒しになり、9月にずれこんだことから、初旬より客数・売り上げ共に好調な出足となった。また、売上高が昨年比べ一時二桁伸長するものの、それ以降売上高は伸び悩み、前年を下回る推移となった。9月は23日まで催事を開催。週末にはビューティー講座を開催し、集客を図り売上に繋げていく。</p>	売上高伸び悩み 催事	各種商品小売業
	<p>柏市内の事務機器店が倒産している</p>	同業他社倒産	書籍・文房具小売業
サービス業	<p>宿泊宴会とも売り上げ減。水光熱費増。重油対前で2倍。電気の燃料調整費7倍。</p>	<p>宿泊減少 宴会減少 経費拡大</p>	ホテル
	<p>9月1日より50円程度値上げをしたが、常連のお客様にすぐに価格転嫁できていいと言われるなど、普通のお客様は間の状況を理解してくださっている。今後の状況を見ながらよりよいサービスの向上に心がけていきたい。同業でも後継がおらずどんどんやめていっている。資本力や後継者のいないところは成り立たないのが今の状況。</p>	<p>価格転嫁 サービス向上 後継者不足</p>	そば・うどん店

【平成20年9月の多い景気キーワード】

◎原材料高騰

- ・ ガソリン代・材料代の値上げの影響がかなり出ている。 (板金・金物工事業)
- ・ 6か月前の積算見積もりに対して、原材料の値上がりは工事価格内で吸収しきれない(赤字になる) (電気工事業)
- ・ 10月1日からの材料の値上がりに対して、販売先への値上げ交渉が難航している。 (紙製容器製造業)
- ・ 原油価格、原材料価格の高騰による企業の業績の悪化が目立ってきている。全体的な景気はますます悪くなるだろう。 (各種食料品小売業)
- ・ 油脂関係の値上げがうなぎ昇り。9月からサラダ油3,000円から4,900円へ (菓子・パン小売業)
- ・ 小麦・油・肉等の食材の値上がりを売価に転嫁できない厳しい状況が続く。文具・事務用品・文具大手の卸会社倒産あり、厳しい状況が続く。衣料用品大手卸会社の大幅縮小もあり、中小の小売商店の環境はかなり厳しいと思う。 (その他の飲食料品小売業)

◎先行き不安

- ・ 倒産情報など不安要素が大きい (板金・金物工事業)
- ・ 先行き見通しの暗いのが心配 (電気工事業)
- ・ サプライムローン問題の影響が世界各国で起こっているため、世界的な不景気が予想される。 (各種食料品小売業)

◎購買意欲の低下

- ・ 企業業績の停滞や物価の上昇、食の安全を脅かす事案の発生などが、消費者のマインドを消極的にしているものと思う。 (百貨店)
- ・ 景気低迷・物価上昇により消費者の買い控えや身の回りの節約により、プロパンガスの消費量も落ち込んでいる。 (燃料小売業)
- ・ 生活のベースである食料品が上がり、電気・ガス等の公共料金の値上げ予告もあり、先行き警戒感からか、消費者の購買意欲を全く感じない。景況はさらに悪くなりそうだ。 (その他の各種商品小売業)

平成20年9月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲55.1に対し、「CCI-LOBO」が▲61.2で、柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.9に対し、「CCI-LOBO」が▲46.5で、柏の方がマイナス幅が19.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が、全ての業種において10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲48.7に対し、「CCI-LOBO」が▲57.7で、柏の方がマイナス幅が9.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種においてよく、卸小売業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲65.3に対し、「CCI-LOBO」が▲58.0で、柏の方がマイナス幅が7.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種において悪くなっており、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.2に対し、「CCI-LOBO」が▲7.6で、柏の方がマイナス幅が6.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.9に対し、「CCI-LOBO」が▲37.9で、柏の方がマイナス幅が11.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種においてよくなっており、建設業は10ポイント以上良い。

平成20年9月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 55.1	 75.0	 52.9	 48.2	 50.0
CCI LOBO	 61.2	 70.8	 59.8	 59.2	 59.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.9	 37.5	 29.4	 24.1	 18.7
CCI LOBO	 46.5	 63.1	 41.6	 44.0	 45.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 48.7	 68.7	 52.9	 41.3	 37.5
CCI LOBO	 57.7	 70.8	 60.9	 51.5	 55.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 65.3	 75.0	 70.5	 58.6	 62.5
CCI LOBO	 58.0	 62.5	 64.2	 54.6	 57.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.2	 6.2	 11.7	 6.8	 25.0
CCI LOBO	 7.6	 25.8	 8.0	 0.5	 2.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.9	 25.0	 29.4	 24.1	 31.2
CCI LOBO	 37.9	 52.0	 38.2	 30.8	 39.6

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：平成20年9月16日～22日
 調査対象：全国の404商工会議所が2580業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況 業況DIは6年ぶり、採算DIは10年ぶりの低水準

9月の業況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は1.5(以下同し)は、前月水準(58.8)よりマイナス幅が2.4ポイント拡大して61.2となり、02年2月以来の水準となった。

産業別の業況DIは、卸売で縮小、建設ではほぼ横ばいだったものの、他の3業種は拡大した。

業況に関する声、当面する問題としては、製造など一部に好調(中国製食品の敬遠に伴う国産品への需要増、鉄鋼・機械関係や造船等)、先行き期待という声があるものの、各種原材料価格上昇の影響により、収益面では厳しい状況。また、仕入価格の高騰に伴う採算の悪化、消費の低迷による売上上の減少などを訴える声が依然として強い。

【建設業】「月に2〜3件の廃業・倒産が発生するなど、業界全体に危機感がある」「(一般工事業業)、「中堅ゼネコン倒産の影響により、地元建設資材会社が連鎖倒産、同社から資材を納入していた業者が調達先を探すのに苦労している」「(一般工事業業)、「受注の減少が続く一

方、材料費の高騰に伴い、採算が悪化」「(建築事業)【製造業】「資材価格の上昇など、依然、厳しい状況が続いており、資金繰りも悪化」「(製材木製品製造業)、「受注量がますます減少しており、従業員の解雇も発生」「(金属加工機械製造業)、「原材料の高騰が経営を圧迫し、年末までにかなり倒産が増える見込み」「(金属加工機械製造業)

【卸売業】「商社、メーカー共に業況は悪化しており、廃業倒産が相次いで発生するなど、先行きの見通しがつかない状況」「(家具・建具等卸売業)、「諸経費の上昇に伴う資金不足により、資金繰りの悪化した店舗が増加」「(農畜産水産物卸売業)、「9月に入り原油価格も若干下がったが、地域によっては小売価格がそれ以上に下落し、採算は悪化」「(化学製品卸売業)

【小売業】「依然として仕入単価が高水準で推移しているため、売上が順調でも採算は好転しない状況がしばらく続く見込み」「(百貨店)、「生活必需品以外の売上悪化に加え、購入単価の低下が続く、収益は減少」「(その他の小売業)、「老舗の有力店が倒産、他にも撤退を考えている店があるなど、厳しい状況」「(商店街)

【サービス業】「益明けから予約客数が激減、現在も同じ状況が続いており、大幅な売上悪化で厳しい状況」「(食堂・レストラン)、「今月は週末も売上の低迷が続いており、廃業する店舗も発生」「(一般飲食店)、「低料金の進出で競争が激化し、閉店も発生するなど業況は最悪」「(理容)

【九月のキーワード】
 更なる悪化への懸念
 各業種から業況の悪化に伴う更なる先行き不安を訴える声が続けられている。建設業からは、「かつては市内最大手であった建設業者が9月に事業停止となるなど、業界の状況はますます悪化しており、今後も倒産する会社が発生する見込み」「(渋川・一般事業)、「一部企業の不良債権発生により、生コンクリート代金の支払いを現金で求められるなど、今後の資金繰りの悪化を懸念」「(金沢・建築事業)、「製造業からは、「今月は受注の若干の回復を期待したものの、一向にその気配は感じられず、今後の見当も全くつかず、先行きが不安」「(半田・織物製造業)、「材料仕入れ単価の高騰が続く一方受注の減少は今後も続く見込み」「(島田・建具製造業)、「昨年からは地元大手商社の倒産が続く、今後は販路が狭まり、より厳しい状況となる見込み」「(多治見・陶磁器・同関連製造業)と

の声を寄せられている。
 仕入コストの更なる上昇
 各業種から、原材料価格の高騰に伴う仕入コストの更なる上昇を訴える声が続けられている。建設業からは、「プラスチック価格が引き続き高騰しているため、製造コストが上昇。一部は販売価格に転嫁しているが、全てに転嫁できず、厳しい経営環境が続いている」「(土別・一般事業)、「原材料価格の上昇に対し、競争激化に伴う受注価格の低下により、採算が悪化」「(米子・一般事業)、「製造業からは、「原材料の価格高騰分を吸収するため値上げを実行するも、利益圧迫は避けられない見通し」「(横浜・他の食料品製造業)、「10月から、包装用紙・インク・材料等の値上げが予定されており、今後も厳しい状況」「(鶴岡・印刷業)との声が寄せられている。また、サービス業からも、「今後はイベント開催により来客数は増加の見込みも、仕入価格等の諸経費上昇により、収益確保は厳しい状況」「(静岡・旅館)といったコメントが寄せられている。

「個人消費は相変わらず低迷目的の物以外は買わないなど生活防衛が感じられる」「(酒田・百貨店)、「生活必需品価格の高騰が影響し、買い控えは今後も続く見込み」「(神戸・百貨店)、「8月のバーゲンセールは好調であったが、その後は節約ムードが強まっており、個人消費は鈍化している」「(金沢・商店街)、「サービス業からは、「一般消費者に加え、企業等の来客も減少」「(野田・すし店)、「食品偽装問題などに対する不安から、消費者に外食を控える傾向があり、売上が悪化」「(唐津・一般飲食店)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲50.4	▲64.6	▲43.1	▲53.6	▲52.8	▲44.4
5月	▲52.9	▲65.0	▲49.0	▲49.1	▲52.6	▲50.6
6月	▲56.0	▲67.7	▲52.4	▲52.6	▲57.7	▲51.2
7月	▲60.5	▲73.2	▲61.3	▲64.5	▲54.4	▲56.8
8月	▲58.8	▲71.4	▲55.4	▲64.7	▲58.9	▲51.4
9月	▲61.2	▲70.8	▲59.8	▲59.7	▲59.2	▲59.7
見通し	▲54.6	▲61.2	▲52.4	▲49.0	▲54.8	▲54.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI